

参考編 資料編 年表編

協力隊事務局長任期一覽

1. 篠浦公夫

(昭和40年4月20日→昭和46年9月10日)

寺岡卓夫(事務局長事務取扱)

(昭和46年9月11日→昭和47年3月15日)

2. 伴 正一

(昭和47年3月16日→昭和52年1月24日)

3. 黒河内康

(昭和52年1月25日→昭和55年8月18日)

4. 野村忠策

(昭和55年8月19日→昭和60年1月31日)

5. 数原孝憲

(昭和60年2月1日 →)

参考

- (1)先進国ボランティアの概要と現状
- (2)我が国NGOの途上国に対する開発協力について
- (3)国内ボランティア
- (4)協力隊の知名度について
- (5)帰国隊を「終了時評価」アンケート
- (6)協力隊派遣国の経済・社会統計

(1)先進国ボランティアの概要と現状

A) 米国 PC (Peace Corps)

1. 1961年平和部隊基本法により設立。

当初は國務省に担当の庁が設置されたが、1970年に各省で別々に計画実施していたボランティア事業（内外とも）が、大統領直属の新機関「ACTION」に統合され、平和部隊も「ACTION」の国際事業局として吸収された。

2. PCの目的は、基本法に明記され次の3点となっている。①開発途上国が必要としているマンパワーを提供する。／②それらの国の人々に米国人を理解させる／③米国民に開発途上国の実情を理解させる。

3. PCに参加している男子青年は徴兵義務履行を延期出来ることとなっている。

4. 設立以来、これまで約10万人のPCを派遣した。

5. 1968(S43)年には1.5万人の派遣をしていたが、国内事情及び途上国からの要請の内容が「教師」から特定分野の技術を有する人材へと大幅に変化して来たことから、現在は約1/3の派遣規模となっている。

6. 1984年予算は、11.5千万ドル（約287億円）

7. 年齢は、18才以上で上限はない。平均年齢は、27.6才。派遣隊員の14%が既婚者で、50才以上の者が5%いる。

8. 派遣訓練（国内）は、オリエンテーションと技術補完研修（農業、林業、畜産、漁業、食品、エネルギー等の分野の実技研修で派遣隊員の1/4程度）の6～8週間である。

9. 1970年代に入って、原則として訓練はすべて受け入れ国で実施することに改めた。

現地訓練は、

配属前—現地語学訓練・任国事情

任期中—業務進行状況分析・目標修正

任期末—業務評価・体験総括・今後の進路

というテーマを中心にそれぞれの任国で実施され、その訓練担当スタッフが派遣されている。現地語学訓練は、8～12週間行われる。

10. 派遣国には、Medical Unitがおかれ、隊員数の多い国には、医師、看護婦が、その他の国には少なくとも看護婦が配置され24時間隊員の健康管理に当たる体制となっている。

11. 帰国時に月175FM(43,750円)で計算される帰国一時金が支給される。

帰国隊員は帰国後1年間は、政府機関への就職に際し、通常の試験は、免除され、直接各機関の面接試験のみで採用されるという特典が与えられている。(Non-competitive Eligibility) また、35大学の学部がPCのために奨学金制度を設置し、12の学部でPC活動に単位を賦与するという事になった。

12. 派遣隊員の約10%が任期延長している。
13. 派遣状況（現地訓練中の人数を除く）

①地域別（1984年現在、60カ国）

地域	人数	割合
アジア	672	14
オセアニア	435	9
中南米	1,343	28
中近東	251	5
アフリカ	2,111	44
計	4,812人	100%
UNV	46	
合計	4,858	

②分野別(1983年)

分野	人数	割合
農林水産	800	18
保健衛生	1,111	25
教育	1,778	40
経済開発	311	7
エネルギー(節約)	178	4
地域社会開発	267	6
合計	4,445人	100%

B) 英国 VSO

(Voluntary Service Overseas)

1. 1958年に設立された非営利団体で、1961年に慈善団体として登録された。
2. VSOは、英国ボランティア計画(BVP)のメンバーの一つで、しかも最大の派遣規模をもち、VSO以外は次の3団体、メンバーとなっており、それぞれ英国政府(ODA: Overseas Development Administration)から補助金を受けている(補助率は90%)。

CIR(Catholic Institute

for International Relations)

IYS(International Voluntary Service)

UNAIS(United Nations Association

International Service)

3. 1983年に25周年を祝った。設立以来約2万人のボランティアを派遣した。

4. 受け入れ国側で、ボランティアの滞在費、住居費及び各プロジェクトの交通、手段、道具類を負担する。

5. 年齢は、20才以上65才まで、大半が25才位である。妻もボランティアの場合のみ同伴が可能、しかし、子供は不可。

6. ボランティアの任期は、2年であるが延長は可能。

7. 1984年の予算は、1,100ポンド(約32億円)。

8. 当初は、教師の派遣が大部分であったが、最近では職業訓練や隊員の技術分野の人材が求められるようになった。

9. 相手側の要請受理からボランティアの出發まで約6~7カ月かっている。

10. 現地で語学訓練(現地語)が1週間~3カ月行われる。

11. ボランティアは、英国の社会保障制度でカバーされ派遣中は、そのための掛け金等必要経費をVSOが負担している。また、ボランティアの活動機関に応じて累進的な計算がなされて支給される帰国一時金の制度がある。

2年任期満了で、3,064ポンド(約89万円)

3年任期満了で、6,346ポンド(約186万円)

12. 派遣状況(1984年現在、35カ国)

①地域別

地域	人数	割合
アジア	241	25
オセアニア	140	16
アフリカ	529	55
カナ	49	5
UNV	4	-
合計	963	100%

②分野別

職種	人数	割合
農業	156	16
教育	443	46
保健衛生	110	11
商業	75	8
技術	137	14
その他	42	5
合計	963人	100%

C. 西独 DED

(Deutscher Entwicklungsdienst)

- 1963年設立の民間の非営利法人で、経済協力省から全面的な資金補助を受けている。
- DEDは、1969年6月18日に「ボランティア活動基本法」、1980年10月31日に「西独ボランティアの方針と基準」が制定された。
- 法人の会員としては、西独政府、Association for Learning, Helping Overseas、その他開発に関係のある非政府機関の連合体がある。
- 西ベルリンに本部及び訓練所がある。
- DEDは、相手側が民間プロジェクトであっても、貧しい恵まれない人々の生活水準向上を目的としたものであれば、協力の対象とする。また、DEDは人材供給のみならず、必要な場合一定範囲内で原材料やProject資金をも供給する。
- 西独政府と受け入れ国との間の基本協定の外、DEDは受け入れ国のプロジェクト実施主体とプロジェクトに関する合意書を取り交わし、相手の権利や義務や費用分担について取り決める。
- 1984年の予算は、7,380万マルク(約64億円)
- 一般的に受け入れ側がボランティアの住

居費や可能なら現地滞在費を負担させることになっているが、これは、相手側の負担能力により一様でない。

9. ボランティアの平均年齢は、31才で約46%が既婚者である。妻帯の場合には海外手当は、40%増となり、子供がいる場合にはさらに、25%増となる。

現地生活費(海外手当)は、全員同一額で、その考え方は、任期終了時の一時金(月250マルク[約21,750円]、これは妻帯者の場合40%増)や各種保険等を合計した額が、ほぼ相当するように算出されている。

10. DEDは、派遣期間中西独内の社会保障制度(失業保険・健康保険)の費用を負担する。

11. ボランティアは、協力活動を始める前に、西独内及び任国で約6ヵ月訓練(語学・任国事情開発問題等)を受ける。ボランティアがプロジェクトで活動を開始するまでには、約1年の期間がかかる。

12. 現地に駐在員が配置されており、DEDを代表しボランティア活動に関し、相手側のプロジェクト主体に助言を行う。

13. 派遣状況(1983年現在、29カ国)

①地域別

地域	人数	割合
アジア	127	15
東アフリカ	285	34
西アフリカ	234	28
ラテンアメリカ	197	23
合計	843人	100%

分野	人数	割合
農業	167	20
保健衛生	172	20
地域開発・福祉	44	5
技術・手工業	284	34
学校・大学の教師	153	18
商業・工業・管理	6	1
その他	17	2
合計	843人	100%

D. フランス AFVP

(Association Française
des Volontaires du Progres)

- 1963年に設立された民間団体(協会)。
- 協力省の補助は1984年現在全予算の70%。
- 運営は理事会によって行われるが、理事会は国と青少年団体からそれぞれ同数の代表者を出すことになっている。
- 1984年の予算は、1億7千万フラン(約27億円)で、そのうち7,000万フランが補助金。
- 海外に協会を代表して、ボランティア活動の調整・管理にあたる駐在員13人がいる。
- ボランティアの資格条件は、
①年齢が21才から31才まで／②独身者であること(夫婦共ボランティアの場合は妻帯可)／③職種の経験があること／④任期2年間従事できること／⑤健康であること
- AFVPは常時募集・常時派遣であるが、派遣が多いのは、9.10.11月である。
- AFVPのスタッフは、90人で半数が在外勤務である。
- 募集に関する照会は年5,000件、書類選考で1,000人位となり、最終的に候補者として登録されるのは400～500人程度である。
- 事前研修は技術補完が主で、1年の研修

もある。

- 現地訓練では現地語を訓練する。
- 任期延長は1年まで認める。延長は全体の10%位。
- 帰国時の一時金支給は2万7千フラン(約54万円)
- ボランティアは、在外ボランティア社会保障を受ける。(病気・失業など)
- 現地における住居・道具・業務に必要な手段は、プロジェクト実施計画の中で確保される。ボランティアの手当はAFVP負担。
- 1984年の派遣状況／①アフリカ地域:100%／②1984年12月現在:557人(22カ国)／③フランスは兵役と並んで協力役務があるが、この協力役務に照するものを国民役務協力員(VSN: Volunteer Service National)といい、派遣数の60%を占めている。／④女性ボランティアは、28%。／⑤派遣分野は次の通り。農業:30%、保健・衛生:30%、地域開発:20%、教育:10%、工業・技術・建設:10%

E. カナダ CUSO

(Canadian University Service Overseas)

- 1961年カナダの権威ある大学(複数)が中心となり、社団法人として、海外ボランティア派遣を目的に設立。
- カナダ国際開発庁(CIDA)から全予算の90%の補助金を受けている。残りの10%は民間からの寄付金。
- CUSOの会員は、各大学、開発協力関係の民間諸団体及び全国で約70のCUSOの地方委員会から成っている。また、基本的な政策や方針は年一回のCUSOの総会で決定

される

4. CUSOのボランティアの選考は、各都市のCUSOの地方委員会でを行う。

5. CUSOのボランティアの海外手当は、受け入れ国の負担。

6. ボランティアの年齢、20~70才。

7. 1981年の予算12,025,000円(約30億円)

8. 派遣状況(1981年: 33カ国)

①地域別

地域	人数	割合
777	45	5
カナ	29	4
東部・中央・部777カ	140	16
*西部777カ	397	45
アフリカ	114	13
南太平洋	149	17
合計	874人	100%

* カナダ人口の30%はフランス語を話すことから派遣が多い。

②分野別

分野	人数	割合
農業・自然資源	144	16
教育(教師)	467	55
保健医療	94	11
技術関係	160	18
合計	874人	100%

②我が国NGOの途上国に対する開発協力について

NGOとは、NON-GOVERNMENTAL ORGANIZATIONの略称で字義通りに訳せば「非政府機関」ということになるが、日本語としては、「民間非営利団体」といった訳語のほうがわかりやすいだろう。わが国における発展途上国に対する開発援助・協力は、これまでも述べられてきたように、政府関係機関(JICA、協力隊も当然この範疇に入る)が主導的な役割を果たしてきた。実際に日本の途上国への開発協力が本格化してきた1960年代中盤~1970年代初期にかけて、アジア、アフリカの現場へ乗り込んで行った多くの日本人(そのほとんどすべては、政府機関を通しての派遣であった)が驚いたことのひとつは、欧米各国からの援助要員の中の相当部分、が宗教団体をはじめとする非政府機関(NGO)から派遣されていたことである。しかも、これら欧米系NGOの中には、政府機関の援助より

も長い歴史と実績をもつものも多く存在した。例えば、スウェーデンでは、すでに1952年の段階で、少なくとも44のNGOが、途上国に対する技術協力に関する中央委員会を設立し、1954年からエチオピア、パキスタンで活動を開始している。(「わが国NGOによる開発協力の展望」NGO研究グループ編)

欧米諸国と日本は、歴史的、宗教的、文化的にも大きく違った社会であり、単純な比較はあまり意味をなさないが、少なくとも途上国に対する協力についての国民的理解、また、協力に対する市民の参加意識という点では、大幅に遅れをとってきたことは否めないであろう。しかしながら、戦後の日本経済復興、国際貿易の中で日本経済の占める位置の急上昇に伴い、日本社会自体の国際化の必要性が、国内的にも、国際的にも高まってきた。

この「国際化時代」における、わが国の国民の意識の方向は、日本経済の国際化と軌を一にした「先進国に追い付け追い越せ」の欧米指向であった。わが国の各種民間団体も、この国際化の波の中で、まず、欧米諸国との「国際交流」に乗り出してゆく。この時期ほとんどの場合「国際」という言葉の中には、アジア、アフリカ、中南米などの第三世界の国々は含まれず、もっぱら、アメリカ、ヨーロッパを指したものといってもいいだろう。

しかし、1970年代中期から後半にかけて潮流は変わってくる。わが国の世界経済に占める位置も確固たるものになり、欧米諸国のみならず、アジア、アフリカ等開発途上諸国との経済的な関係も益々緊密なものとなってきた。それにつれて、わが国政府による、途上国に対する「開発協力」の体制も確立されてくる。

これにつれて、途上国に関する情報の流入も飛躍的に増大し、徐々にではあるが、国民の目も、途上国に向けられはじめる。NGOに関しても、欧米諸国の同種団体との「国際交流」をひとあたり終えた団体の目が、開発途上諸国の方向へ向きはじめるのもこの頃である。

わが国NGOの転機となるのは、1970年代終期～1980年代初めにかけての、「インドシナ難民救済」運動といえる。この、インドシナ難民救済運動は、ポート・ピープル、ランド・ピープル等のマスコミによる悲惨な状況の報道に触発され、わが国でも多くのNGOが募金活動などにのり出し、大きな盛り上がりを見せた。しかし、いち早く現地に医療活動などに従事するボランティアを送り、行動を起こした欧米各国のNGOに比し、モノや

金を送るだけで、実際に現場に飛び込まない日本のやり方に対して、マスコミ等の非難がなされるという状況がおこる。これを契機に生まれたのが、JVC（日本国際ボランティアセンター）であり、また、多くの市民が主体となった、いわゆる草の根のNGOである。1979年から1981年の3年間をとってみると、すくなくとも26団体が設立されており、その大多数は市民による草の根NGOとして位置づけられる。これらのグループ、団体の活動内容自体も、この時期を境に、これまで募金、救済物資の送付を主体としたものから、より、開発協力の本質に迫ったものへとの変換がおこってくる。例えば、前述のJVCの活動も、タイ国境を越えて流入してくる難民を、難民キャンプにおいて、医療、給食活動を通じて救援するにとどまらず、難民の定住化、生活基盤の構築にむけて職業訓練、井戸掘、農業技術普及等より長期的な協力活動を展開しはじめている。また、対象地域も、インドシナにとどまらず、アフリカの飢餓難民をも視野に入れた活動へとその分野を広げてきている。

ここで余談ながら、JVCの現任事務局長を勤めている星野昌子氏は、協力隊の第一期生として、ラオスに派遣された元協力隊（日本語）であることは、協力隊20年の歩みを振り返る時、感慨深いものがある。

またその他のNGOも、国内における開発教育、研修目的で途上国の人たちを受け入れる活動、実際に現地にボランティアを派遣する活動等その活動のスコープを広げつつある。とくに、実際に現地にボランティアをおくって、開発協力をを行うタイプの活動のパイオニアとして、オイスカ産業開発協力団（19

69年設立)、あるいは、バングラデシュの農村開発に力を入れてきたシャブラニールー市民による海外協力の会(1972年設立)の名前をあげておかねばなるまい。また、技術協力型のボランティア派遣としてユニークな活動を行っている団体として日本シルバーボランティアズ(1979年設立)がある。これは、「わが国の中・高年<シルバー族>を活用して、技術協力を通じて途上国地域発展の一翼を担う」ことを目的としており、いわば、協力隊のシルバー版といえよう。豊富な実務経験に裏打ちされた応用力のある確かな技術が高く評価され、実績も順調に伸び、これまでに33カ国に189人(1984年10月現在)が派遣されている。

こうして、わが国でも、NGOによる、いしかえれば、一般市民による草の根レベルでの途上国に対する開発協力がようやく活発化しはじめてきたわけである。しかしながら、欧米諸国のNGOのように、長い伝統とこれまでの実績と比べると、ようやく国際協力の分野での市民の「国際化」は、その緒についたところという方が正しいだろう。例えば、多くの国々では、政府開発援助(ODA)の資金の相当部分がNGOを通して、ODA

のカバーしきれない分野、あるいは、対象に対しよりキメ細かな、個別的な協力の実績を上げている点などをみても、この面でのさらなる進展が望まれる。わが国の政府も、途上国協力を果たすNGOの役割を重視し、外務省経済協力局内にNGO担当事務官を置いたのに始まり、昭和60年度予算では、初めて、NGO調査支援費を計上したことでわかるように、前向きに取り組みつつある。協力隊事業は、政府事業とはいいながら、わが国青年の自発的意志による協力活動を促進し、かつまた、その青年たちが、協力活動を通じて得てきた知識・途上国理解を、わが国の国民と分かち合うといういわば、国民的運動であり、その意味からも、こうしたNGO活発化に象徴される国民レベルでの、途上国開発協力への関心の高まりは、歓迎すべき方向である。また、この方面でのパイオニアとして、わが協力隊の途上国に関する情報、途上国内に関するノウハウの蓄積は、各NGOの活動にとっても利用価値の高いものであることは十分自信をもって言い切れるところであり、これから大いに協力しあっていくべきであろう。

③国内ボランティア

青年海外協力隊が、海外ボランティア活動であるとすれば、国内ボランティア活動の啓発、育成、支援など広範な活動を展開している。(社)日本青年奉仕協会にふれなければならない。同協会は協力隊発足にその役割を果たした、日本青年奉仕隊推進協議会を母体にして昭和42年11月に発足している。当時、高

度経済成長期の社会的なひずみなどが問題となり、新しい社会開発の必要性が力説され、その担い手として国内の青少年による奉仕活動が重視され同協会は、これを積極的に推進することが期待された。国内のボランティア活動の動向調査、社会開発青年奉仕隊として沖縄、小笠原など全国各地で約1カ月間のボ

ランティア活動が実施され、すでに38回を数えている。更に、この計画は、「1年間ボランティア活動計画」に発展、昭和60年には47名、国内44カ所で活躍し注目を集めている。その他、学校教育の中にボランティア学習を推進する「教育開発事業」、指導者養成を含むボ

ランティア活動促進、育成事業、更に国際交流、協力事業などなどをすすめている。

国内におけるボランティア活動の高まりは、直接、協力隊参加者に関わる点に留意し、今後一層の連携がのぞまれる。

4 協力隊の知名度について

協力隊を志願出来る年令20才から35才の青年男女がどの程度「協力隊」を知っているか、また開発途上国につてどの程度の理解するかを調査するため、1984(S59)年3月東京及び大阪で、1985(S60)年3月札幌、仙台、名古屋、広島、高松、福岡、那覇の7都市でそれぞれ調査員による質問紙を用いた訪問調査を行った。

以下の結果は、60年のものであるが、59年の調査結果もほぼ今回と同様の結果がでている。

抽出方法：国勢調査区を札幌、仙台、名古屋、広島、福岡、より各26地点、高松、那覇より各15地点の計160地点をランダムに抽出し、さらに各地点ごとに20～24才を6サンプル、25～29才を6サンプル、30～35才を8サンプルを男女半々に220回収することを目標にした。

設定サンプル数及び回収状況は、次の通り。

設定サンプル数及び回収状況

	標本数	回収数	性別		年令(才)		
			男	女	20～24	25～29	30～35
全	3,200	3,199	1,596	1,603	965	956	1,278
札幌	520	520	261	259	157	155	208
仙台	520	520	258	262	157	156	207
名古屋	520	520	259	261	157	156	207
広島	520	520	258	262	156	155	208
高松	300	300	150	150	90	90	120
福岡	520	520	260	260	157	155	208
那覇	300	299	150	149	91	88	120

*青年海外協力隊に関する調査(まとめ)

1) 開発途上国についての知名度および関心度

国名の知名率では、36カ国中1人当たり26カ国を知っており、インドネシア、フィリピン、インド、カンボディア、マレーシア、タイ、ケニア、ネパールは、知名率90%以上である。これに対してモルディヴ、ホンデュラス、ニジェールは、知名率30%未満。高学歴層程いずれの国に対しても知名率が高く大学、大学院卒では、1人当たり30カ国知名。

2) 開発途上国の想起率

開発途上国と聞いて、まず思い出す国は、カンボディアが最も多く2人に1人、次いでバングラデシュ、ケニア、インドネシア、タンザニア、マレーシア、フィリピン、インドが3人に1人以上。やはり、高学歴層程いずれの国に対しても想起率が高く大学、大学院卒では、1人当たり11カ国想起。

3) 開発途上国のイメージ

開発途上国のイメージの強いのは、カンボディアがトップ。次いで、バングラデシュ、インドネシア、タンザニア、ケニア。開発途上国という言葉からは、2人に1人以上が貧困。次いで多いのは、「天然資源」「飢餓」「自然」「非衛生」「原始的」を5人に1人以上が

連想。開発途上国に対して協力すべきだとする層程、「貧困」「天然資源」「飢餓」「非衛生」の各イメージが高い傾向がみられる。

4) 開発途上国への関心度

開発途上国に「非常に関心がある」(4.1%) ある程度関心がある」(36.1%) とする関心派が40.2%。これに対して、「全く関心がない」(6.5%)、「あまり関心がない」(29.4%) とする無関心派が、35.9%、「どちらともいえない」とする中間派が23.3%。

* 開発途上国に対する海外協力の必要性

1) 海外協力の進め方

「ほどほどに協力すべきだ」という消極推進派が51.4%と過半数。「積極的に協力すべきだ」という積極推進派が42.8%と推進派が94.2%と圧倒的に多く、「協力しなくてもよい」という否定派は4.7%と僅か。開発途上国への関心度が高い層程、積極推進派が多く、「非常に関心がある」層では、86.4%と大部分を占めた。

2) 海外協力が必要だと思う理由

「日本は資源の面などで開発途上国に依存しているので、これらの国々と友好関係を保持していくために必要である」が29.7%、「余裕ある先進国が貧しい開発途上国を助けるのは人道上の義務であるから必要である」が28.0%と資源面と人道面が2大焦点。開発途上国への関心が高い層程、人道上のウェイトが高い。

3) 海外協力が必要ないと思う理由

「日本国民の生活の方が先決だと思うから」が43.7%と群を抜いて多い。これ以外では「開発途上国自信が努力すべき問題だから」

も27.3%と3割近い。

* 青年海外協力隊の知名状況とそのイメージ

1) 知名状況

「青年海外協力隊」を「よく知っている」が15.3%、「名前だけ知っている」が50.9%と知名度は66.2%。高年令層、高学歴層程、知名度は高い。

2) 認知媒体

認知媒体としては、「新聞(中央紙、地方紙)」、「NHKラジオ・テレビ」、「民放ラジオ・テレビ」に集約される。那覇で認知経路が他地域と比べ多様化している。

3) 青年海外協力隊イメージ

「国際的」が59.9%と大半を占め、次いで「純粋な」が36.0%と多かった。

4) 青年海外協力隊員イメージ

「健康的な人」「情熱的な人」「奉仕的な人」が3大イメージ。

5) 事業内容認知と事業への意見

事業内容認知者は60.8%。こうした事業の必要性については、「国はこうした活動を積極的に拡大すべきだ」(30.0%) 「国はこうした活動を拡大すべきだ」(39.6%) の拡大派が69.6%。

* 開発途上国への海外協力活動参加意向

1) 参加意向

「参加する(と思う)」は、13%と10人に1人以上。地域別で、札幌(17.5%)那覇(16.4%)が他地域に比べて参加意向大。開発途上国に対して協力すべきだとする層程、また青年海外協力隊の知名度の高い程、特に開発途上国への関心度の高い程参加意向が高い。

2) 参加理由・不参加理由

参加理由は、「開発途上国の国造りに協力したいから」が50.6%と過半数を占めた。不参加理由は、「今の学業・仕事にさしつかえるから」(38.1%)、「現在の生活状態では余裕がないから」(38.1%)が2大理由といえる。

* 青年海外協力隊員をめぐる諸要因の分析

1) 「知っている人」と「知らない人」を分ける要因

開発途上国に対する関心度と最終学歴が他要因に比べて大きく影響している。開発途上国への関心の高い程、また学歴の高い程、「青年海外協力隊」という名前がよく知られているといえる。

2) 「参加する人」と「参加しない人」を分ける要因

公的機関による「海外協力活動」への参加・不参加に影響する要因は、開発途上国に対する関心の程度や現在の仕事・生活に対する満足度、地域活動、社会活動の参加実態など

が主なものである。

3) 「参加する人」と「参加しない人」はそれぞれどういう人なのか

「参加する人」→海外協力積極推進派/開発途上国へある程度関心/
年令20~24才/札幌または那覇居住の条件具備層で1番多い。

4) 「意義を認める人」と「意義を認めない人」はそれぞれどういう人なのか

「意義を認める人」→海外協力積極推進派/隊員イメージ「思いやりのある人」/開発途上国に非常に関心の条件具備者で1番多い。

5) 海外協力隊イメージ分析

実務家・エリート、情熱家・エリート、情熱家・一般人、実務家・一般人の4大イメージのいずれかで青年海外協力隊は受け取られており、参加意向者は実務家・一般人イメージを連想するグループに多い。

⑤ 帰国隊員「終了時評価」アンケート

協力隊事業が「国の事業」として発足して20年、その間、堅実に地歩を築き「3年倍増期」とともに内外にかつてない反響の高まりを見た。20年の流れは、わが国の対外経済協力に対する積極的な政策もあり、加速的状況で今日に至っているとも言える。反面、事業の堅実な運営は、広く国内外の共感を得ていることも事実である。

協力隊事業が国民的理解を得るには、その事業活動について自らの評価診断が必要であ

る。そのため20年の時間的経過をふまえて、隊員の任期終了時に「終了時評価」を行っている。

「協力隊事業に評価は馴じむか」という疑問があるとしても、現状では事業の趣旨に沿って如何なる「結果」を得ているか、隊員は個々の立場で、自己開発の意味も含めて行っている。一例として、58年は次の要領で実施した。

「協力隊派遣19カ国の帰国隊員の終了時に

おける調査」

対象者は、昭和56、57年度終了者調査の重点項目：

- ①業務上の活動状況
- ②自己開発に就いて
- ③人間交流の実態について
- ④その他（項目多数あるも省略）

上記につて、結果の一部を抽出し参考に資す。

<業務上の活動状況>

ア) 業務において、「計画に対する達成度」及び、隊員が「配属先の業務推進に与えた影響度」についての問いに対し、

	(達成度)	(影響度)
70%以上	44人	42人
50~69%	34人	35人
30~49%	17人	33人
29%以下	8人	25人
不明	44人	10人

以上の結果は、それぞれの隊員の自己評価であるが、基準としている%は努力の基準とならないことがある。発展途上国の実情に則した活動は結果によってのみ評価し得ないものがある。ちなみに、

「配属先の隊員の業務に対する協力の姿勢」はどうかと、みてみると、

イ) 隊員業務への協力姿勢 (対象者:145名)	
協力的	61%
非協力	16%
その他	23% (無関心)
記載なし	1名

ウ) 業務遂行の予算について

予算獲得に努力した	39%
努力したがダメだった	26%
その他	31%
記載なし	4%

財政問題を含め、途上国の現状に取り組む

ことは、物心両面に配慮が必要となる。この点に隊員の能力の限界が感じられるところである。

エ) 技術指導の効果 (習得度)

効果があった	6%
まずまずと思う	60%
習得度低い	31%
なんとも言えない	3%

オ) 活動に必要なとする機材の状況

設備は十分	39%
最低限調達した	43%
設備不十分	10%
答えなし	8%

とあり、設備十分のなかには隊員の携行機材など含めてのことである。指導対象となる人々の「資質」の問題等、現実には困難が多い。

<自己開発について>

ア) 協力隊参加の充実度・満足度

80%以上	69%
50~79%	22%
49%以下	8%
その他	1%

上記の結果は、隊員個々に心情的な問題を含んでいることも想像されるが、隊員にとって協力隊事業のとらえ方の難しさもあると考えられる。

イ) 言葉の習得度 (習得に要した期間)

期間	公用語	現地語
5カ月未満	20%	70%
6~12カ月	61%	19%
1年以上	13%	11%
回答なし	6%	0

協力隊事業の「言語」面の範囲は広く、世界の言語使用比率からみれば英語、中国語、仏語、スペイン語などが主であるが、隊員の使用する言語は「現地語」すなわち土着の言葉に接することが多い、例としてピリピノ、イロカノ、マレイ、ネパール、ベンガル、ヒ

ンディー、タイ、ラオス、カンボディア、アラビア、スワヒリ、アムハラ、チチェワ、ウォルホ等々があげられる。これらの言語はわが国では希少価値があり、国際化の進む中でこのことは大きい意味を持つものである。

<人間交流について>

ア) 職場における人間関係

	上司の場合	同僚の場合
よかった	74%	81%
わるかった	18%	11%
回答なし	8%	8%

イ) 在任中に接触した人数

不明	2人
多数	3人
30人未満	30人
31~49人	15人
50~79人	18人
80~99人	5人
100 ~199 人	39人
200 人以上	32人
記載なし	1人

ウ) 特に親しくなった人数

不明	4人
5人未満	27人
6~9 人	35人
10~19人	36人
20~29人	14人
30人以上	29人

「人間交流」に現れた数字で、職場におけるア) の人間関係の状態と、イ) の地域交流からみても、接触人数の多いのは、「教育・スポーツ」関係が多いが、隊員の地域に取り組んでいる様子が理解出来るものである。

以上は、アンケート調査の結果のごく一部であるが、この外、20年の実績が「技術的に現地に定着」した例、それが生産活動となり、住民生活の向上・改善に役立っているケースがあげられる。これは協力隊事業20年のもつ実績というべきであろう。



タンザニア洋裁隊員

(6)協力隊派遣国の経済・社会統計

国名	人口1,000人当り 普通出生率		都市人口 (対全人口比)		人口規模 医師1人当り		1日1人当りカロリー供給 供給量 必要量に對		人口1人当りエネルギー消費 (石油等100kg)		年令層に占める 就学者数の比率				成人 識字率
	1960	1982	1960	1982	1960	1980	1981	する比率	1960	1981	小学校	中学校	1960	1981	
	人	人	%	%	人	人	Cal	%	kg	kg	校	校	校	校	
(低所得国)															
バングラデシュ	47	47	5	12	—	10,940	1,952	84	—	35	47	62	8	15	26
エチオピア	51	47	6	12	100,470	58,490	1,758	76	7	23	7	46	—	12	15
ネパール	46	43	3	6	73,470	30,060	1,929	86	3	10	10	91	6	21	19
マラウイ	56	56	4	10	35,250	40,950	2,138	94	—	46	—	62	1	4	25
インド	48	34	18	24	4,850	3,690	1,906	86	79	158	61	79	20	30	35
タンザニア	47	47	5	13	18,220	17,560	1,985	83	30	50	25	102	2	3	79
ニジェール	52	52	6	14	82,170	38,790	2,489	102	3	31	5	23	—	6	10
スリランカ	36	27	18	24	4,490	7,170	2,250	102	122	123	95	103	27	51	85
ガーナ	50	49	23	37	21,600	7,630	1,995	88	72	161	38	69	5	36	—
ケニア	55	55	7	15	10,690	7,890	2,056	88	114	142	47	109	2	19	42
カンボディア	45	—	10	—	35,280	—	1,998	95	—	59	64	—	3	—	—
ラオス	44	42	8	14	53,520	20,060	1,986	97	11	65	25	97	1	18	15
(低位中所得国)															
リベリア	50	50	21	34	12,600	9,610	2,510	114	66	373	31	65	2	20	25
セネガル	46	48	23	34	24,990	13,800	2,434	101	381	206	27	48	3	12	10
ボリビア	46	43	34	45	3,830	—	2,179	91	122	326	64	86	12	34	63
ザンビア	51	50	23	45	9,540	7,670	2,094	93	—	443	42	96	2	16	44
ホンデュラス	51	44	23	37	12,620	3,120	2,171	96	102	206	67	95	8	30	60
エルサルバドル	48	40	38	42	5,330	3,220	2,146	94	98	210	80	61	13	20	62
タイ	44	28	13	17	7,909	7,100	2,303	105	44	284	83	95	13	29	86
バブア・ニューギニア	44	38	3	17	19,320	13,590	2,323	92	37	240	32	65	1	13	32
フィリピン	47	31	30	38	6,970	7,970	2,318	116	109	281	95	110	26	63	75
モロッコ	50	40	29	42	9,410	10,750	2,643	115	118	283	47	78	5	26	28
コスタリカ	48	30	37	43	2,740	1,460	2,686	118	208	592	96	108	21	48	90
ペルー	47	34	46	66	1,910	1,390	2,183	98	315	532	83	112	15	57	80
チュニジア	47	34	36	54	10,030	3,690	2,782	116	119	497	66	106	12	30	62
パラグアイ	43	31	36	40	1,810	1,710	3,005	139	54	172	98	102	11	26	84
(上位中所得国)															
シリア	47	46	37	49	4,630	2,270	2,908	120	218	771	65	101	16	48	58
マレーシア	44	29	25	30	7,060	7,800	2,662	121	222	689	96	92	19	53	60
(市場経済工業国)															
イギリス	18	13	86	91	940	650	3,322	132	3,952	3,541	92	103	66	83	99
日本	17	13	63	78	930	780	2,740	117	880	3,087	103	100	74	92	99
フランス	18	14	62	79	930	580	3,360	133	1,964	3,619	144	100	46	86	99
ドイツ	18	10	77	85	670	450	3,538	133	2,645	4,342	133	100	53	94	99
アメリカ	24	16	70	78	750	520	3,647	138	5,863	7,540	118	100	86	97	99

国名	電話台数 (1980)	水道普及率 (%)	乗用車1台 当りの人口 (1980)	1人当り奨助 受取額 (1982)	失業率 (1982)
(低所得国)	(台/百人)	(%)	(人)	(U.S.\$)	(%)
バングラデシュ				14.7	
エチオピア	2.8			6.1	
ネパール			526.3	13.0	
マラウイ			208.3	18.7	
インド			400	2.2	
タンザニア	0.5			36.0	
ニジェール			115.4	42.8	
スリランカ	0.6		89.3	27.4	
ガーナ				11.6	0.7
ケニア	2.1		65.8	26.8	
カンボディア				6.6	
ラオス				10.7	
(低位中所得国)					
リベリア				54.5	
セネガル				46.8	
ボリビア		(1976) 34.4		25.2	
ザンビア	1.1			40.1	
ホンデュラス	0.8			39.7	

国名	電話台数 (1980)	水道普及率 (%)	乗用車1台 当りの人口 (1980)	1人当り奨助 受取額 (1982)	失業率 (1982)
エルサルバドル	1.9			45.6	
タイ	1.1	(1976) 11.7	53.5	7.9	(1980) 0.3
バブア・ニューギニア	1.4			100.2	
フィリピン	1.5	(1970) 61.1		6.6	5.3
モロッコ	1.2		33.3	23.9	
コスタリカ	10.7			33.5	9.4
ペルー	2.7			10.7	7.0
チュニジア	3.0		29.6	31.6	
パラグアイ	1.8			27.5	
(上位中所得国)					
シリア	1.1	(1970) 35.9		104.9	(1979) 3.9
マレーシア	4.5		15.8	9.1	
(市場経済工業国)					
イギリス	47.7		3.2		12.2
日本	46.0	(1983) 93.7	3.1		2.4
フランス	45.9	(1975) 97.3	2.5		8.0
西ドイツ	46.4	(1972) 99.2	2.5		7.5
アメリカ	78.8	(1977) 99.2	1.4		9.7

資料:「世界開発報告」1984 「海外経済協力便覧」1985

国名	1人当りGNP		商品貿易額		経常収支		外貨準備総額		年平均インフレ率		出生時平均	人口の平均増加率(%)		
	1982	1960-82	輸出	輸入	1970	1982	1970	1982	1960-70	1970-82	余命(年)	1960-70	1970-80	1980-2000
	(US\$)	平均増加率(%)	1982年(百万US\$)		(百万US\$)		(百万US\$)		%	%	%	%	%	%
(低所得国)														
バングラデシュ	140	0.3	769	2,300		-632		207	3.7	14.9	48	2.5	2.6	2.9
エチオピア	140	1.4	404	787	-32	-196	72	277	2.1	4.0	47	2.4	2.0	3.1
ネパール	170	-0.1	46	252			-86	94	268	7.7	8.9	46	1.9	2.6
マラウイ	210	2.6	262	314	-35	-78	29	29	2.4	9.5	44	2.8	3.0	3.4
インド	260	1.3	8,446	14,088	-394	-2,696	1,023	8,109	7.1	8.4	55	2.3	2.3	1.9
タンザニア	280	1.9	480	1,046	-36	-268		65	19	1.8	11.9	52	2.1	3.4
ニジェール	310	-1.5	333	442			19	35	2.1	12.1	45	3.4	3.3	3.3
スリランカ	320	2.6	1,015	1,771	-59	-574	43	380	1.8	13.3	69	2.4	1.7	1.8
ガーナ	360	-1.3	873	705	-63	83	58	318	7.5	39.5	55	2.3	3.0	3.9
ケニア	390	2.8	979	1,683	-49	-509	220	248	1.6	10.1	57	3.2	4.0	4.4
カンボディア			40	62							43	2.5		
ラオス			24	83			6					1.9	2.0	2.6
(低位中所得国)														
リベリア	490	0.9	531	477		-79		8	1.9	8.5	54	3.2	3.5	3.5
セネガル	490		477	974	-16		22	25	1.8	7.9	44	2.3	2.7	3.1
ボリビア	570	1.7	832	456	4	-92	46	563	3.5	25.9	51	2.4	2.6	2.4
ザンビア	640	-0.1	1,059	831	108	-252	515	157	7.6	8.7	51	2.6	3.1	3.6
ホンデュラス	660	1.0	654	712	-64	-228	20	120	2.9	8.7	60	3.1	3.4	3.1
エルサルバドル	700	0.9	704	883	9	-250	64	277	0.5	10.8	63	3.4	3.0	2.6
タイ	790	4.5	6,945	8,548	-250	-1,144	912	2,674	1.8	9.7	63	3.1	2.4	1.9
バブアニューギニア	820	2.1	799	1,029		-487		374	4.0	8.1	53	2.2	2.1	2.2
フィリピン	820	2.8	5,010	8,229	-48	-3,356	255	2,573	5.8	12.8	64	3.0	2.7	2.1
モロッコ	870	2.6	2,059	4,315	-124	-1,876	141	540	2.0	8.3	52	2.6	2.6	2.5
コスタリカ	1,430	2.8	872	887	-74	-200	16	250	1.9	18.4	72	3.3	2.5	2.2
ペルー	1,310	1.0	3,230	3,787	202	-1,644	339	1,987	10.4	37.0	58	2.9	2.8	2.2
チュニジア	1,390	4.7	1,960	3,294	-53	-657	60	339	3.6	8.7	61	2.0	2.3	2.3
パラグアイ	1,610	3.7	330	581	-16	-388	18	699	3.1	12.7	65	2.6	2.6	2.3
(上位中所得国)														
シリア	1,680	4.0	2,026	4,015	-69	-493	57	579	2.6	12.2	66	3.2	3.5	3.5
マレーシア	1,860	4.3	11,789	12,543	8	-3,445	667	4,833	-0.3	7.2	67	2.8	2.5	2.0
(市場経済工業国)														
イギリス	9,660	2.0	97,028	99,723	1,975	9,391	2,919	21,083	1	14.2	74	0.6	0.1	0.1
日本	10,080	6.1	138,911	131,932	1,980	6,977	4,877	34,404	5.1	6.9	77	1.0	1.1	0.4
フランス	11,680	2.7	92,629	115,645	50	-12,152	5,199	53,928	4.2	10.1	75	1.1	0.5	0.4
ドイツ	12,460	3.1	176,428	155,856	850	3,544	13,879	88,251	3.2	4.9	73	0.9	0.1	-0.1
アメリカ	13,160	2.2	212,275	254,834	2,320	-11,504	15,237	143,445	2.9	7.3	75	1.3	1.0	0.7



ネパールの子供たち

年度別国別隊員派遣実績(含シニア)

年度別国別隊員及びシニア隊員(含C.C.M.C)派遣実績 ※下記段カッコ内

国	年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	派遣	帰国	合計	
フィリピン		13	6	53	33	27	49	42	25	23	33 (1)	32 (2)	26 (1)	22	30 (1)	34 (1)	36	33	37	30	55 (1)	104 (2)	104 (2)	535 (9)	
マレーシア		5	10	41	4	50	43	27	46	22 (2)	23 (1)	17	19 (1)	29 (1)	26	20	44 (2)	31	28	38	52 (1)	93 (1)	93 (7)	484 (18)	
ラオス		10	45	26	31	49	15	25	22	14 (1)	15	6	1 (1)									0	250 (2)	250 (2)	
カンボディア		9		3	4																	0	16 (0)	16 (0)	
タイ																		5	13	15 (1)	19	38 (1)	14	52 (1)	
バングラデシュ										8	9 (1)	6	22	13	19	22 (1)	16	32	23	25 (1)	22 (2)	54 (2)	163 (2)	217 (4)	
ネパール						12	9	9	21	22	31 (1)	21	18	16 (2)	17	25 (1)	31	18	23 (2)	45 (1)	73 (3)	245 (4)	318 (7)		
インド			9	13	18	38	20	16	10		4		1 (1)	2 (2)								0	131 (3)	131 (3)	
スリランカ																		10	6	15 (1)	37 (1)	-54 (2)	14 (0)	68 (2)	
モルディブ																		4		5	2	6	5 (0)	11 (0)	
シリア						2		2			5	1	1	14 (1)	14	5	11 (1)	10	10	9	13	25 (0)	72 (2)	97 (2)	
チュニジア												9	12	18	7	11 (1)	12 (1)	7	10	8	13	22 (0)	85 (3)	107 (3)	
モロッコ				10	29	7	13	7	5	19	2	10	9	9	10	20	7	14	13	28	26 (1)	57 (1)	181 (0)	238 (1)	
エチオピア									38	8	17		12	4		6	5	2	7	8	16 (1)	27 (0)	36 (0)	123 (1)	
ケニア		3	11	16	14	8	27	13	28	10 (2)	15 (2)	31	22 (1)	20 (1)	39 (1)	44	61 (1)	40	41	45 (3)	44 (3)	102 (6)	430 (8)	532 (10)	
タンザニア			30		35	53	19	32	20	17 (1)	19 (2)	20 (1)	13 (1)	7	16 (1)	17 (1)	19 (1)	27	18	28	31 (1)	70 (8)	354 (8)	421 (9)	
マラウイ								22	15	7	19	22	34	26	45	53 (1)	84	48	48	52 (2)	49 (1)	109 (3)	415 (1)	524 (4)	
ザンビア						6	6	3	12	10	9	15	12	23	20	20	7	23	21	23 (1)	42	69 (1)	183 (0)	252 (1)	
ガーナ														12	18	20	19	26	30 (1)	27	30 (2)	62 (2)	120 (1)	182 (3)	
リベリア															7			6	13	9	13 (1)	24 (0)	24 (0)	48 (1)	
セネガル																3	8	16	12	12 (1)	31 (1)	20 (0)	51 (1)		
ニジェール																				1 (1)	10 (0)	10 (1)	11 (1)		
エルサルバドル					11	2	13	10	8	3	6	8	5 (1)	4	4							0 (0)	74 (1)	74 (1)	
コスタリカ												4	1	2	9 (2)	4	10	5	13 (1)	5	8	14	22 (0)	53 (3)	75 (3)
ホンデュラス												2	2	6	18 (1)	13 (1)	21	21	18 (1)	32 (2)	30 (3)	62 (3)	101 (6)	163 (6)	
パラグアイ															3	4	12	4	13	21	23 (1)	32 (2)	59 (0)	112 (2)	
ポリウイア															8 (1)	1	10	4	4	5	10	14 (0)	28 (1)	42 (1)	
ペルー																1	4	5	8	18	20	39	17 (0)	56 (0)	
西リモア									4	1	6	3	10	8	4 (1)	13 (1)	7	14	12	14	16	32 (0)	80 (2)	112 (2)	
トンガ									1	1		2	3	1	2			3	2	3	4	4 (2)	8 (0)	26 (2)	
ソロモン																			1	3	4 (1)	2	7 (0)	12 (1)	
バブア・ニューギニア																	7	3	10 (2)	5	9	0 (0)	19 (2)	34 (2)	
フィジー																				2	4	6	0 (0)	6 (0)	
合計		40	111	162	179	233	217	208	245	164 (6)	208 (7)	216 (4)	227 (7)	248 (7)	304 (8)	348 (7)	410 (17)	433 (2)	436 (5)	516 (1)	672 (9)	1298 (36)	4279 (84)	5577 (91)	
派遣国累積		5	7	8	9	11	12	13	16	17	19	20	20	23	24	26	29	31	31	33	33				

年度別シニア・一般隊員別派遣実績

区分	年度	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	派遣	帰国	合計
シニア										6	7	4	7	7	8	7	7	2	5	16	21	36	62	97
隊員		40	111	162	179	233	217	208	245	158	201	212	220	241	296	341	403	431	431	500	651	1262	4217	5480
合計		40	111	162	179	233	217	208	245	164	208	216	227	248	304	348	410	433	436	516	672	1298	4279	5577

- (注) 1. 派遣ベースで訓練ベースとは異なる。
 2. シニア隊員・嘱託調整員・医療調整員を含む。
 3. 職員調整員及び国連ボランティア(UNV)は除く。
 4. 昭和60年3月31日現在。

氏名	職	氏名	職	氏名	職	氏名	職
川合 越次	漁具	坪井 達史	食肉	中村 美也	陶治	西九 三宏	電通
佐藤 由美	工育	野川 孝博	文書	村辺 貞常	明義	松元 倉健	久健
田中 伴修	工育	原伸	文書	中 達	常	小野 哲夫	和健
田中 治	園芸	菅 木	親和	村 中	一樹	宇野 和健	夫平
岩田 木	園芸	愛敬	和	三 鈴	憲	佐々木 橋	一守
山本 府和	園芸	岩田 芳	和	伊 東	茂	小野 美	美子
水田 英	園芸	久下 福	和	立 花	信	長谷川 秀	夫
中 隆	園芸	山 井	和	大 溝	弘	上 佐	秀
海 隆	園芸	押 井	和	大 置	弘	佐 菊	久
江井 藤	園芸	山 井	和	藤 藤	弘	錦 有	宏
後藤 川	園芸	近 藤	和	三 浜	善	川 有	宏
田川 二	園芸	萩 正	和	秋 木	武	之内 泰	淳
古川 點	園芸	山 幸	和	丹 羽	信	伊 泰	章
石 明	園芸	松 幸	和	片 山	政	塚 敏	敏
佐藤 洋	園芸	西 島	和	小 原	弘	天 直	賢
高 張	園芸	田 裕	和	河 野	仁	久 賢	一
寺見 田	園芸	岡 正	和	黒 川	久	高 下	海
鈴 木	園芸	海 正	和	宇 佐	光	鈴 下	克
大 竹	園芸	沢 秀	和	宇 佐	雅	竹 居	敏
新 尾	園芸	大 重	和	野 田	雅	山 原	一
北 堀	園芸	渡 重	和	要 包	正	山 木	知
草 野	園芸	渡 重	和	小 猪	政	久 英	幸
村 尾	園芸	渡 重	和	投 西	政	八 伊	幸
小 野	園芸	渡 重	和	大 崎	政	藤 藤	幸
山 田	園芸	渡 重	和	松 崎	政	古 泉	幸
須 高	園芸	渡 重	和	大 島	政	山 樹	幸
富 有	園芸	渡 重	和	福 田	政	山 樹	幸
吉 河	園芸	渡 重	和	伊 白	政	田 中	幸
島 村	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
滝 石	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
栗 芝	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
渡 芝	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
小 林	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
林 田	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
小 古	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
大 和	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
和 隆	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
登 岡	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
古 角	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
守 屋	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸
吉 永	園芸	渡 重	和	永 高	政	田 中	幸

氏名	職	種	氏名	職	種	氏名	職	種	氏名	職	種
加藤 文雄	電機	機械	沼野 謙二	電子	機器	佐竹 重男	森林	経営	嶋 伸次	農業	機械
藤木 文道	電機	機械	林 一夫	電機	機器	山崎 善作	森林	経営	嶋利古志	農業	機械
大倉 和	電機	機械	宮地 賢治	電機	機器	山崎 善二	森林	経営	江口 寛良	農業	機械
高島 一	電機	機械	大竹 隆子	電機	機器	猪瀬 光雄	森林	経営	野 康之	農業	機械
大赤 秀典	電機	機械	渡辺 次男	自動車	整備	猪瀬 光雄	森林	経営	長野 潤造	農業	機械
林 孝子	電機	機械	岡村 恒夫	電子	計算機	藤原 成清	森林	経営	栗松 利憲	農業	機械
細野 ちづる	日本語		岡木 曾俊	電子	計算機	田中 功	森林	経営	宮永 純正	農業	機械
北村 泰介	農業	機械	葛 蒲 佐子	日本語		【43年3次】			【49年2次前期】		
高橋 藤三	電機	機械	結 城 謙子	日本語		三木 松英	農業	機械	松島 勝行	農業	機械
佐藤 廣春	電機	機械	加藤 雄 敦	日本語		田島 克彦	農業	機械	【49年2次前期】		
小川 清	電機	機械	加藤 池 隆	日本語		郡山 捷利	農業	機械	中山 正邦	農業	機械
石渡 隆志	電機	機械	西岡 昌彦	日本語		大木 捷利	農業	機械	【50年1次前期】		
阿部 辰夫	建設	機械	石井 嶋 昭	日本語		津 田 田 長	農業	機械	遠水 芳文	農業	機械
萩野 孝司	建設	機械	谷大 嶋 英	日本語		田中 定夫	農業	機械	【50年1次後期】		
小田島 孝	建設	機械	小 林 一 郎	日本語		塚 田 明	農業	機械	偶木 道孝	農業	機械
今野 直美	日本語		伊藤 邦 雄	日本語		伊東 功二	森林	経営	小林 則雄	農業	機械
大竹 弘子	日本語		岡千 西 林	日本語		香山 功一	森林	経営	後藤 泉	農業	機械
田 俊明	自動車	整備	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	間 隆太郎	農業	機械
金井 恵美子	助産	婦	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【50年2次前期】		
丹羽 康子	体育	(レボール)	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	水野 陸幸	農業	機械
吉田 鶴一	体育	(レボール)	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	梅原 充速	農業	機械
高橋 治由	視聴	機械	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【50年2次後期】		
高平 由美子	視聴	機械	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	坂田 展治	農業	機械
大川 幸弘	電機	機械	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	竹本 健治	農業	機械
大沢 敏明	電機	機械	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【51年1次前期】		
大沢 敏明	電機	機械	熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	東方 今佐雄	農業	機械
水野 弘子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【51年1次後期】		
水野 弘子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	菊池 修一	農業	機械
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【51年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	井上 尚三	農業	機械
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【51年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	河野 嘉仁	農業	機械
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【52年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【52年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【52年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【52年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【53年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【53年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【53年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【53年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【54年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【54年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【54年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【54年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【55年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【55年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【55年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【55年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【56年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【56年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【56年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【56年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【57年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【57年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【57年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【57年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【58年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【58年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【58年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【58年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【59年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【59年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【59年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【59年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【60年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【60年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【60年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【60年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【61年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【61年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【61年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【61年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【62年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【62年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【62年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【62年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【63年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【63年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【63年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【63年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【64年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【64年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【64年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【64年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【65年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【65年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【65年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【65年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【66年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【66年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【66年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【66年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【67年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【67年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【67年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【67年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【68年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【68年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【68年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【68年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【69年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【69年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【69年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【69年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【70年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【70年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【70年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【70年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【71年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【71年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【71年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【71年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【72年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【72年1次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【72年2次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【72年2次後期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【73年1次前期】		
小野 康子	日本語		熊谷 博 一	日本語		香山 功一	森林	経営	【73年1次後期】		
小野 康子</											

氏名	職種	氏名	職種	氏名	職種
(シニア)合計123名				【50年2次後期】	
ケニア				浅木 見村 裕次郎 自動車整備	
【40年2次】		桃野 太壮 園芸 作物		木倉 三浦 文義 理数科教師	
福田 武司 建設 機械		長倉 俊明 電気 工事		小長谷 田中 治和 自動車整備	
【41年1次】		安武 明市 電気 工事		近藤 山 芳和 婦人子供	
境村 定忠 測量 測量		田島 山 邦子 婦人子供		関川 村 政光 園芸作物	
尾木 賢之助 自動車整備		法郎 山 邦子 婦人子供		沼田 沼田 光泰 自動車整備	
【42年2次】		【48年2次前期】		沼田 沼田 光泰 自動車整備	
梅山 敏行 漁具 漁法		善積 沢 幸和 漁具 漁法		山田 木 良雄 園芸作物	
【43年3次】		【48年2次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
千賀 原 和受 漁具 漁法		松井 昭 自動車整備		山田 木 良雄 園芸作物	
【44年1次】		【49年1次前期】		山田 木 良雄 園芸作物	
中石 井田 雄男 自動車整備		及川 研 志夫 自動車整備		山田 木 良雄 園芸作物	
【45年1次】		【49年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
中石 井田 雄男 自動車整備		大川 良助 自動車整備		山田 木 良雄 園芸作物	
【46年1次】		【49年2次前期】		山田 木 良雄 園芸作物	
山口 留 正 農業 土木		佐藤 健一 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
【47年1次】		【49年2次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
池田 敏郎 電気 工事		米山 九元 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
【48年1次】		【50年1次前期】		山田 木 良雄 園芸作物	
木小 千 善宗 漁具 漁法		大野 葉 博 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
【49年1次】		【50年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
古松 公 建設 機械		大野 葉 博 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
【50年1次】		【50年2次前期】		山田 木 良雄 園芸作物	
根川 克志 養蚕 自動車整備		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
【51年1次】		【50年2次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
桑田 口 功和 武道(柔道)		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
【52年1次】		【51年1次前期】		山田 木 良雄 園芸作物	
石黒 弘 武道(柔道)		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【51年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		青三 田 野村 良三 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【52年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		佐藤 健一 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【53年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【54年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【55年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【56年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【57年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【58年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【59年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【60年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【61年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【62年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【63年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【64年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【65年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【66年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【67年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【68年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【69年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【70年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【71年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【72年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【73年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【74年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【75年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【76年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【77年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【78年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【79年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【80年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【81年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【82年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【83年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【84年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【85年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【86年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【87年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【88年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【89年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【90年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【91年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【92年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【93年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【94年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【95年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【96年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【97年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【98年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【99年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	
		【100年1次後期】		山田 木 良雄 園芸作物	
		岩政 江 満 園芸 作物		山田 木 良雄 園芸作物	

タンザニア・マラウイ

氏名	職	種	氏名	職	種	氏名	職	種	氏名	職	種	
[49年1次前期] 池田治光	園芸	作物	[53年1次後期] 佐藤彦	獣医	送信	[56年3次] 板橋博	自家	整備	森岡	平夫	船舶	作備
岩崎純秀	"	"	伊藤義	ラジオ	送信	橋本靖	動物	整備	藤原	春正	船舶	作備
[49年1次後期] 中沢秀憲	自動車	整備	[53年2次前期] 島岡生義	電気	機器	村野海	自家	整備	波田	正一	船舶	作備
[49年2次後期] 井英次	園芸	作物	藤西生	電気	機器	仲野海	自家	整備	波高	正茂	船舶	作備
山中川隆	自動車	整備	伊中井	"	"	八木和	自家	整備	[59年2次] 井坂	真文	船舶	作備
[49年2次後期] 永野見拓	自動車	整備	[53年2次後期] 竹下博	獣医	送信	矢野恵	自家	整備	石橋	義郎	船舶	作備
中野見拓	自動車	整備	松田勝	獣医	送信	[56年4次] 天重野	自家	整備	古島	義郎	船舶	作備
高野見拓	自動車	整備	加井上	獣医	送信	廣瀬英	自家	整備	鈴木	幸城	船舶	作備
伊浮地哲	園芸	作物	[54年1次] 石松井	土木	肥料	宮嶋信	自家	整備	阿部	勇毅	船舶	作備
谷哲生	"	"	下敏	土木	肥料	伊貴	自家	整備	大石	野毅	船舶	作備
[50年1次前期] 野直人	園芸	作物	益初	農業	上木	田博	自家	整備	川野	寛	船舶	作備
柴江桂	園芸	作物	原功	農業	上木	庄信	自家	整備	口勝	寛	船舶	作備
[50年1次後期] 津司節	園芸	作物	宮敏	農業	上木	山良	自家	整備	坂井	正清	船舶	作備
大熊節	園芸	作物	坂助	農業	上木	内神	自家	整備	高中	久川	船舶	作備
谷沢平	園芸	作物	[54年3次] 井上越	土木	肥料	浦井	自家	整備	中風	呂	船舶	作備
[50年2次前期] 山孝一	自動車	整備	竹卓	土木	肥料	酒邊	自家	整備	細吉	欣	船舶	作備
田中伸一	建築	"	[54年4次] 古賀啓	獣医	送信	吉野	自家	整備	馬内	宏	船舶	作備
黒澤道	建築	"	賀田明	獣医	送信	内八	自家	整備	九宮	秀	船舶	作備
[50年2次後期] 小滝勝	自動車	整備	野明	獣医	送信	高橋	自家	整備	森山	本	船舶	作備
[51年1次前期] 伊藤主	自動車	整備	邊北	園芸	作物	石附	自家	整備	山影	二	船舶	作備
上野博	"	"	川吉	園芸	作物	西沢	自家	整備	村博	輝	船舶	作備
藤田孝	土木	施工	長谷川	土木	肥料	谷川	自家	整備	(シニア9名)合計421名			
藤田孝	土木	施工	下村	土木	肥料	府波	自家	整備				
近藤和	獣医	送信	村神	土木	肥料	和田	自家	整備				
下田均	電気	工事	三村	土木	肥料	池田	自家	整備				
横部真	建築	"	小川	土木	肥料	岩大	自家	整備				
阿部三	プラント	機械	松原	土木	肥料	遠島	自家	整備				
岩崎光	"	"	野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
[52年1次後期] 国島	建築	"	川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
[52年2次前期] 斉藤健	船舶	園芸	下村	土木	肥料	根和	自家	整備				
[52年2次後期] 田知木	土木	肥料	神三	土木	肥料	田直	自家	整備				
伊藤勝	土木	肥料	三村	土木	肥料	根和	自家	整備				
吉野勝	土木	肥料	小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
内井勝	土木	肥料	松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
[53年1次前期] 星田	漁具	漁法	野原	土木	肥料	遠島	自家	整備				
			川原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			下村	土木	肥料	田直	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	根和	自家	整備				
			神三	土木	肥料	田直	自家	整備				
			小川	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			松原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			野原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			川原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			下村	土木	肥料	田直	自家	整備				
			神三	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			小川	土木	肥料	根和	自家	整備				
			松原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三	土木	肥料	根和	自家	整備				
			小川	土木	肥料	田直	自家	整備				
			松原	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			野原	土木	肥料	根和	自家	整備				
			川原	土木	肥料	田直	自家	整備				
			下村	土木	肥料	岩大	自家	整備				
			神三									

コスタリカ・ホンデュラス・パラグアイ

氏名	職	種	氏名	職	種	氏名	職	種	氏名	職	種
横田 雅美	日本	品	久松 幸行	児童美術教育	山本 住子	家	政	斎藤 望美	家	政	家
[58年3次]			[54年3次]		[57年3次]			坂島 理子	音楽	音楽	音楽
秋木 和弘	自動車	整備	佐藤 福寛	陶器	北野 逸郎	船舶	機械	野島 美知子	保育	保育	保育
[58年4次]			白藤 順一	美術	九谷 逸郎	漁具	漁具	松野 智子	青少年活動	青少年活動	青少年活動
中原 陽子	手	芸	北川 用二	体育	古谷 逸郎	漁具	漁具	村岡 伸枝	花	花	花
[58年1次]			[54年4次]		富田 逸郎	産物	産物	[シニア8名]合計163名			
中藤 真利	電子	器	武藤 山美	漁具	竹森 田登	産物	産物	パラグアイ			
山岸 伸子	"	"	[55年1次]		[57年4次]			[52年2次前期]			
[59年1次]			安手 島達	均規	上間 通志	玄幸	ブラステック	櫻 美紀	園芸	園芸	園芸
菊谷 正子	野理	業	島谷 達	均規	紅西 隆俊	重幸	電気	長谷川 清	明也	園芸	園芸
前田 博孝	体育	育	中野 直昭	均規	橋口 和伊	重幸	電気	中川 一也	園芸	園芸	
山々 石	自動車	整備	野茂 直昭	均規	本部 直人	重幸	電気	[52年2次後期]			
[59年2次]			野茂 直昭	均規	浪川 高仁	重幸	電気	堀田 康雄	養	養	養
大洪 行三	自動車	整備	野茂 直昭	均規	高仁 秀子	重幸	電気	[53年1次後期]			
道倉 誠規	電子	器	野茂 直昭	均規	[58年1次]			沖野 拓郎	印刷	印刷	印刷
山栗 幸子	養	殖	野茂 直昭	均規	猪俣 健光	重幸	電気	本城 正行	農業	農業	農業
[シニア3名]合計75名			野茂 直昭	均規	奥村 健二	重幸	電気	木本 京子	食用	食用	食用
ホンデュラス			野茂 直昭	均規	中山 健二	重幸	電気	[53年2次後期]			
[50年2次前期]			野茂 直昭	均規	山田 正也	重幸	電気	野崎 裕	写真	写真	写真
馬越 榮志	園芸	作物	野茂 直昭	均規	[58年2次]			[54年1次]			
藤 陸	漁具	漁法	野茂 直昭	均規	池田 高洋	重幸	電気	長田 繁三郎	園芸	園芸	園芸
[51年1次前期]			野茂 直昭	均規	大河 果	重幸	電気	衣川 信子	看護	看護	看護
伏屋 広義	電気	交換	野茂 直昭	均規	沖小 鶴	重幸	電気	石塚 かつ子	"	"	"
亀井 義政	無線	通信	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[54年2次]			
[52年1次前期]			野茂 直昭	均規	小野 直	重幸	電気	市川 澄雄	食川	食川	食川
岩永 等花	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	川田 道彦	食川	食川	食川
[52年2次前期]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	駒形 光彦	養病	養病	養病
中小 義剛	園芸	作物	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	伊藤 整	看護	看護	看護
村 弘行	体育	育	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	安大 塚真琴	司	司	司
北島 弘行	体育	育	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[54年3次]			
吉上 廣行	園芸	作物	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	林 志津子	家	家	家
井上 隆	園芸	作物	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[55年1次]			
[52年2次後期]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	堀川 満	体育	体育	体育
風木 隆一	漁具	漁法	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	中嶋 しのぶ	音楽	音楽	音楽
谷口 隆一	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[55年2次]			
[53年1次前期]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	堀部 晚志	園芸	園芸	園芸
山田 君	日本	語	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	永代 成日出	園芸	園芸	園芸
小田 昭	電話	交換	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[55年4次]			
[53年1次後期]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	中山 利隆	果	果	果
君波 恒久	病	害	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	斎藤 美江子	看護	看護	看護
野野 剛	漁	漁	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	須永 道子	音楽	音楽	音楽
世古 明	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[56年1次]			
佐藤 隆子	水産	加工	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	大杉 勇賀子	看護	看護	看護
中根 元	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[56年2次]			
小嶋 政男	体育	育	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	中西 野	児童	児童	児童
[53年2次前期]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	橋本 直	児童	児童	児童
清野 真子	無線	通信	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[56年3次]			
中林 和英	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	氏佐 隆二	果	果	果
[53年2次後期]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	佐藤 隆二	果	果	果
阿部 賢	小型	造船	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	[56年4次]			
小川 一治	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線
[54年1次]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線
小田 中	自動車	整備	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線
田安 永治	ブラステック	成形	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線
[54年2次]			野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線
大久保 晃	グラフィック	デザイン	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線
島 遠	"	"	野茂 直昭	均規	高西 忠直	重幸	電気	秋阿 彦	無線	無線	無線

西サモア・トンガ・ソロモン・バブア・ニューギニア・フィジー

氏名	職	種
[55年1次]		
高澤 操	電話交換機	技師
高宮 永祐	建築構造計算	技師
花 里 信彦	土木施工	技師
増田 みどり	臨床検査技師	
[59年2次]		
川崎 洋一	工作機械	技師
小針 勇博	在庫管理	技師
[59年3次]		
青木 正治	視聴覚機器	技師
浦崎 裕之	歯科医師	
榎村 典昭	無線通信機器	技師
高橋 孝夫	数理数科教師	
高谷 智美	歯科衛生士	
(シニア2名)合計112名		
トンガ		
[47年3次]		
藤久保 健児	農業機械	技師
[48年1次後期]		
永田 豊照	漁具漁法	技師
[49年2次後期]		
川上 光義	船舶機関	技師
[50年1次後期]		
岡部 進一	冷凍機器	技師
[51年1次前期]		
色川 信之	漁具漁法	技師
[51年2次前期]		
川口 正徳	養殖	技師
花房 榮次郎	船舶機関	技師
[52年1次前期]		
北口 雅裕	冷凍機器	技師
[53年2次前期]		
森 忠士	漁具漁法	技師
国 廣勝彦	船舶機関	技師
[55年2次]		
倉松 明男	養殖	技師
桜井 研次	冷凍機器	技師
[55年3次]		
大池 明	船舶機関	技師
[56年3次]		
橋 裕巳	漁具漁法	技師
長坂 雅文	船舶機関	技師
[緊急短期]		
青島 多津子	数理数科教師	
[57年3次]		
岡本 一宏	養殖	技師
[緊急短期]		
岡吉 幸江	数理数科教師	
[57年4次]		
深谷 寛	数理数科教師	
[58年1次]		
永安 博志	冷凍機器	技師
[58年2次]		
山上 宏子	数理数科教師	
[58年3次]		
西住 廣喜	船舶機関	技師
[59年3次]		
千田 孝和	数理数科教師	
西沢 範子	家庭	技師
(シニア2名)合計28名		
ソロモン		
[54年1次]		
山本 栄王	二漁具漁法	技師
中山 晴	船舶機関	技師
[56年3次]		
岩橋 勇	船舶機関	技師
[56年4次]		
石川 広光	船舶機関	技師

氏名	職	種
[55年1次]		
森 忠士	漁具漁法	技師
[57年1次]		
小田多 清重	冷凍機器	技師
[58年2次]		
奥本 裕	漁具漁法	技師
渡辺 督郎	冷凍機器	技師
[58年3次]		
早川 雅彦	自動車整備	技師
[59年3次]		
佐々木 聡考	古学	技師
九山 智恵子	プログラマー	
(シニア1名)合計12名		
バブア・ニューギニア		
[55年1次]		
岡田 治武	道(気道)	技師
塚本 佳治	自動車整備	技師
浜田 哲郎	道(気道)	技師
[55年2次]		
九尾 朗義	鶏	技師
萩原 清孝	冷凍機器	技師
佐々木 利弘	土木施工	技師
永山 慎子	日本語	技師
[55年4次]		
青木 修治	建設機械	技師
[56年2次]		
岩本文男	自動車整備	技師
[56年3次]		
伊東 京子	水産統計	技師
[56年4次]		
武下 操	園芸作物	技師
[57年1次]		
持田 智男	合気道	技師
[57年2次]		
福富田 一	自動車整備	技師
岡 健治	土木施工	技師
坂山 英治	船舶機関	技師
[57年3次]		
勝田 雅之	写真	技師
塚本 孝男	自動車整備	技師
山形 潔	視覚機器	技師
[57年4次]		
安部 通美	美術	技師
米川 米一	プログラマー	
[58年1次]		
佐藤 陸	園学	技師
佐藤 正則	武道(柔道)	技師
森田 清二	自動車整備	技師
[58年4次]		
大田 孝治	養鶏	技師
丸田 秀士	昆虫	技師
[59年1次]		
大野 政義	体育	技師
橋詰 芳房	写真	技師
[59年2次]		
中西 康博	土壌肥料	技師
小川 良	自動車整備	技師
[59年3次]		
岡田 智二	自動車整備	技師
小柳 蒼陸	船舶機関	技師
松本年史	自動車整備	技師
(シニア2名)合計34名		
フィジー		
[58年1次]		
飯嶋 盛雄	稲作	技師
水野 顕	農業機械	技師

氏名	職	種
[58年4次]		
貞方 蕭司	書	技師
宮本 武男	陶器	技師
[59年2次]		
田辺 駿	水産統計	技師
[59年3次]		
伊東 一郎	土木施工	技師
合計6名		

氏名	職	種
[55年1次]		
高橋 秀子	歯科医師	
藤本 阿光	冷凍機器	技師
水田 治生	自動車整備	技師
[56年2次]		
久保山 康博	建築	技師
青原 子信	漁具漁法	技師
福山 昭智	船舶機関	技師
石井 美砂子	水産加工機械	技師
[56年3次]		
斎藤 裕子	理科教師	
[56年4次]		
石木田 陸	理科教師	
薄井 修一	自動車整備	技師
山崎 明	電気機器	技師
[67年1次]		
池田 和美	土木施工	技師
佐藤 仁司	電話交換機	技師
土間 良則	野	技師
[57年2次]		
深瀬 裕司	在庫管理	技師
藤井 如猛	野菜	技師
[57年3次]		
中田 春豊	理科教師	
藤田 尚希	野菜	技師
[57年4次]		
池田 純	建築	技師
尾木 正之	理科教師	
近藤 徹也	通信電力	技師
[58年1次]		
青島 孝康	冷凍機器	技師
上村 康幸	公衆衛生	技師
青三 藤克幸	野菜	技師
[58年2次]		
勝南 誠一郎	水産物加工	技師
南平 陸也	漁具漁法	技師
[58年3次]		
栗原 和志	土木建設	技師
野田 立志	電気機器	技師
[58年4次]		
川口 雄正	理科教師	
桜井 内良	溶接	技師
宮崎 睦	土木製図	技師
[59年1次]		
桜井 志郎	自動車整備	技師

シニア隊員名簿

(嘱託調整員、医療調整員を含む)

氏名	派遣国	職種	派遣期間	氏名	派遣国	職種	派遣期間				
[48年度]											
恒和	ラオス	ラジオ送信機	48.8.15~50.8.14	黒井	陸奥	ホシデンラス	58.7.13~60.7.12				
良登	マレーシア	農業	48.10.25~50.10.24	上田	高松	ケニヤ	58.11.18~60.11.17				
中村	正克	養魚	49.1.17~51.1.16	黒今	田村	ケニヤ	58.11.18~60.11.17				
相馬	正彦	養魚	49.1.24~52.1.23	保	保	ネパール	59.3.16~61.3.15				
仁部	彦孝	養魚	49.3.6~52.3.5	[59年度]							
部	孝	養魚	49.3.8~51.3.7	山長	中秀	ガナ	59.4.1~61.3.31				
[49年度]											
越仁	志子	船舶	49.4.6~52.4.5	田中	秀雅	トンガ	59.5.28~61.5.27				
小越	教子	船舶	49.4.16~51.4.15	仁福	吾	ホンデラス	59.5.30~61.5.29				
小蜜	勝	野	49.6.17~51.6.16	福村	永木	マレーシア	59.8.27~61.8.26				
小野	野	野	49.10.15~51.10.14	鈴	便	エトピア	59.9.5~61.9.4				
小奥	野	野	49.10.15~55.10.14	飯	健	ケニヤ	60.3.15~62.3.14				
小奥	野	野	50.1.16~52.7.15	[50年度]							
小奥	野	野	50.3.29~52.8.28	大	武	ル	50.4.28~52.4.27				
[50年度]											
大	武	ル	50.4.28~52.4.27	小	佐	ル	50.10.10~53.10.10				
小	佐	ル	50.10.10~53.10.10	山	本	ル	50.12.15~52.12.14				
小	佐	ル	50.12.15~52.12.14	山	本	ル	50.12.25~52.12.24				
小	佐	ル	50.12.25~52.12.24	[51年度]							
[51年度]											
新	作	野	51.5.8~52.5.7	新	作	野	51.5.8~52.5.7				
中	子	野	51.5.11~53.5.10	中	子	野	51.5.11~53.5.10				
江	陸	野	51.6.17~55.6.16	江	陸	野	51.6.17~55.6.16				
正	三	野	51.9.29~55.9.28	正	三	野	51.9.29~55.9.28				
正	三	野	51.10.15~53.10.14	正	三	野	51.10.15~53.10.14				
正	三	野	51.10.16~55.20.15	正	三	野	51.10.16~55.20.15				
正	三	野	52.3.31~55.3.31	正	三	野	52.3.31~55.3.31				
[52年度]											
[52年度]											
深	和	日	52.4.26~53.12.31	深	和	日	52.4.26~53.12.31				
尾	保	日	52.5.9~54.5.8	尾	保	日	52.5.9~54.5.8				
和	と	日	52.6.23~53.12.31	和	と	日	52.6.23~53.12.31				
和	と	日	52.7.15~52.12.31	和	と	日	52.7.15~52.12.31				
和	と	日	52.9.5~54.9.4	和	と	日	52.9.5~54.9.4				
和	と	日	52.10.19~54.10.18	和	と	日	52.10.19~54.10.18				
和	と	日	52.10.18~54.10.17	和	と	日	52.10.18~54.10.17				
[53年度]											
[53年度]											
大	雅	農	53.4.28~55.4.27	大	雅	農	53.4.28~55.4.27				
大	通	農	53.7.9~55.7.2	大	通	農	53.7.9~55.7.2				
大	通	農	53.9.20~55.9.19	大	通	農	53.9.20~55.9.19				
大	通	農	53.9.29~55.9.28	大	通	農	53.9.29~55.9.28				
大	通	農	53.9.30~55.9.29	大	通	農	53.9.30~55.9.29				
大	通	農	53.12.22~56.9.29	大	通	農	53.12.22~56.9.29				
大	通	農	54.2.7~54.6.22	大	通	農	54.2.7~54.6.22				
[54年度]											
[54年度]											
小	政	自	54.4.1~56.3.31	小	政	自	54.4.1~56.3.31				
小	政	自	54.5.28~56.5.27	小	政	自	54.5.28~56.5.27				
小	政	自	54.6.12~56.6.11	小	政	自	54.6.12~56.6.11				
小	政	自	54.8.15~56.8.14	小	政	自	54.8.15~56.8.14				
小	政	自	54.9.15~56.9.14	小	政	自	54.9.15~56.9.14				
小	政	自	54.9.9~56.6.30	小	政	自	54.9.9~56.6.30				
小	政	自	55.1.9~57.8.8	小	政	自	55.1.9~57.8.8				
[55年度]											
[55年度]											
松	枝	家	55.7.25~57.7.24	松	枝	家	55.7.25~57.7.24				
松	枝	家	55.9.27~56.2.23	松	枝	家	55.9.27~56.2.23				
松	枝	家	55.10.9~57.10.8	松	枝	家	55.10.9~57.10.8				
松	枝	家	55.10.30~58.10.29	松	枝	家	55.10.30~58.10.29				
松	枝	家	56.1.24~58.4.23	松	枝	家	56.1.24~58.4.23				
松	枝	家	56.3.20~59.3.19	松	枝	家	56.3.20~59.3.19				
松	枝	家	56.4.1~59.3.31	松	枝	家	56.4.1~59.3.31				
[56年度]											
[56年度]											
安	葉	版	56.6.22~57.7.30	安	葉	版	56.6.22~57.7.30				
安	葉	版	56.9.29~58.9.28	安	葉	版	56.9.29~58.9.28				
[57年度]											
[57年度]											
秋	正	自	57.4.6~59.4.5	秋	正	自	57.4.6~59.4.5				
秋	正	自	57.7.14~59.7.13	秋	正	自	57.7.14~59.7.13				
[58年度]											
[58年度]											
遠	賢	家	58.6.23~60.6.22	遠	賢	家	58.6.23~60.6.22				

C.C.: Contract Coordinator 嘱託調整員
M.C.: Medical Coordinator 医療調整員